

# 岩手教区報

第385号  
 立教188年1月1日  
 天理教岩手教務支庁  
 盛岡市馬場町3-40  
 TEL 019-622-7962  
 FAX 019-623-9597

立教188年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。昨年中は献血活動のうえにご理解ご協力をいただき、誠にありがとうございました。本年も何卒よろしくお願いいたします。

2か月ほど前、教務支庁で実施した献血ひのきしんの際に、防災セミナーを受講してくれた地域の方から「実際に体験してみたいと思うのですが、なにかできることはないでしょうか」と相談を受けました。大々的に企画するには時間的に無理なので、少人数で実施したいとのことでした。そこで日赤の方と相談して『非常食・包装食の作り方』を実際に作って試食してみることになりました。

当日(11月27日)赤十字奉仕団3名の方にもお手伝いいただき、袋(ハイゼックスや耐熱性の高いビニール袋)に米と水を計って入れ、味つけに種なし梅干や塩コンブを加えて30分ほど煮るとい、袋をつかった炒飯を体験しました。袋の空気をきちんと抜くことがポイントで、参加者からは「簡単なようでむずかしく、実際に体験してみても良かったです」という感想がありました。献血ひのきしんを契機に、改めて地域で防災セミナーが企画され、人とのつながりが広がったこと

はともうれしく思います。

また、献血ひのきしんの時、近隣の町内には回覧もお願いしますが、50軒ほどは戸別訪問をします。ある時「どうして天理教さんが回るのか」と尋ねられたことがあります。私は「あの建物(教務支庁)がどんな建物なのか、どんな活動をしているのか、皆さんに知ってほしいからです。知っていた方が安心ではありませんか?」と答えました。入信する、しないではなく、まづ建物の存在を知ってほしいという想いでした。

教区内では、介護施設に従事している人、保護司、交通安全指導員、民生委員、児童委員、保健推進委員など、様々な地域活動に携わっている人が多くいます。世の中の人たちと一緒に活動(仕事)をし、自分の役目を誠実に果たすことで信頼関係を築いていく。そこから教会の存在を知ってもらおう。ようぼくの立場で自分はこの活動(仕事)に関わっているということを忘れずに行動したいものです。

今年はいよいよ教祖百四十年祭活動仕上げの年です。陽気ぐらし世界実現に向けての手本として、地域の人々に親しまれ信頼される教会になり得るよう、努めていきたいと思っております。



ようぼくの立場で世の中へ  
 献血推進委員長 小笠原敦子  
 教祖140年祭



## 「順序一つ」

「ジャンナーの法則」によれば、時間の心理的な長さは年齢に反比例するという。そのせいなのか、正月を迎える度に「二年が経つのははやい」などどつい呟いてしまいます。人によって進み方が異なる時間。時間とは何だろうと考えながら「おさしづ」をめぐっていたら、「順序一つ」という言葉が目が止まりました。検索すると85の事例がヒット。その中で、本席様を通しておさしづの理を拝戴する時に、今は「おかきさげ」として頂戴しますが、成人へ向かう道筋を教えてください、身の上や事情の伺いでは、大きな導きの中で通らなければならぬ道筋を諭され、今を楽しめと励まされています。

「順序一つ」はさまざまなシーンで使われますが、いずれの場合も、モノゴト

の順序には意味があると悟ることができません。物理学者の私には「順序一つ」の言葉はスーと心に入ってきます。というのは、量子力学の「不確定性原理」では、モノゴトは起こる順序によって結果が異なることが知られているからです。身近な例では、温泉に行き酒を飲んだり風呂に入ったりの場合を考えましょう。この時、それらの順番には注意が必要です。入浴の後に酒を飲んでも健康に問題はありませんが、酒を飲んでから風呂に入ると心臓などに問題が起こる場合があります。

もう一例。お正月には親子で雪かきをする光景を目にします。観察すると、雪かきには三つのパターンがあることに気がきます。ある親子は自宅の前だけを雪かきしておしまい。別の親子は自宅の後に公道の雪かきをする。また、公道やお隣の雪かきなど、人に喜んでもらうことをした後で自宅の雪かきをする親子もいます。最初のケースでは、自分ことだけやれば良いのだ。二番目では、余力があれば人に役立つこともしよう。三番目では、何をさておいても人様のことをまづ考えようとお子さんには伝わるのではないのでしょうか。正に順序一つ。行いの順番を変えるだけで、人への思いの伝わり方が変わるこの例は、お道の教えを子

供たちに伝える時にも使えそう。

順序一つが天の理。モノゴトの順序によって異なる結果と未来が来る。この言葉には今を生きる私たちへの大きな導きと、時間とは何かを考える手掛かりが凝縮されているようです。

**青年会あらかじつりよう塾**

内容 能登救援ひのきしん  
 日程 3月14日～16日  
 募集人員 5人程度

**計報**

佐野 武志 さん(86歳)  
 三陸支部・吉里吉里分教会  
 3代会長  
 令和6年12月23日出直された。

- 行事予定** 【1月分】
- 16日 役員会議(10時)
  - 18日 予算地方委員会(役員会議後)
  - 18日 女子青年例会(10時)
  - 31日 学生担当委員会例会(19時)
  - 31日 青年会例会(19時)
  - 31日 婦人会例会(10時)



### 道の教職員の集い

#### 「第17回陽気フォーラム」報告



教区道の教職員の集いは、去る11月30日(土)、教務支庁を会場に、「第17回陽気フォーラム」を開催し、41人が参加した。講師に異信行(修心分教会長)先生を迎えて、「話し過ぎない」において「いがけ」のテーマのもと、実技を交えての講話となった。

異講師は、教内初の「バリテーション」資格取得者で、これは認知症患者とのコミュニケーション法で、「こそあど言葉」が増える高齢者に対して、一人ひとりの感情を表に出させて共感し、心配や不安を減らし、人生最後の尊厳を取り戻していく実践の手法。

講話後のアンケート結果では、「身近な問題で良かった」「高齢者について疑問に思っていた事が解決した」などの声

があり、後日、実践したという参加者もあった。今回のフォーラムは、認知症高齢者のみならず、里親や子ども食堂などの福祉活動にも対応が可能で、おいがけの新しいコミュニケーション法とも感じられた。



### 献血推進委員会

#### 「献血呼びかけひのきしん」報告

教区献血たすけあいの会は、去る12月1日(日)、イオンモール盛岡(盛岡市前湯)で行われた県赤十字血液センターの「クリスマス献血2024」に盛岡支部から4人が参加した。

イーハトーブ学生赤十字奉仕団(県立大学)をはじめ、4つのボランティア団体が参加し、オープニングセレモニーの後、午前10時30分から午後4時まで、プラカードを持って来店された方々に献血を呼びかけるひのきしんを実施した。

2月1日(土)には、イオンモール盛岡(盛岡市前湯)に於いて「バレンタイン献血キャンペーン」が実施されます。多数のご協力をお願いします。



### 青年会

#### 「健康感謝わんこそば大会」報告

教区青年会は、去る12月8日(日)、教務支庁を会場に「健康感謝わんこそば大会」を開催し、青年会員、学生など27人が参加した。

開会にあたり挨拶に立った村松義朗教区青年会委員長は、「お貸し与えただいている健康な身体に、日々御礼感謝する習慣を身につける良い機会にして下さい」と話した。

続いて、わんこそばを1分間で何杯食べられるかを競うタイムアタックが行われた。壇上に並んだ出場者たちは、「はい、どんどん♪」の掛け声の中、おわんに盛られたそばを勢いよく口の中へと放り込んでいき、記録が更新される度に大きな歓声が上がった。学生会総会後に参加した学生たちが奮闘する中、32杯を記録した、三陸支部委員長の黒沢有貴さんが優勝した。



### 学生担当委員会

#### 学生の集い「まなびば」報告

教区学生担当委員会は、去る12月7日(土)、8日(日)の1泊2日の日程で、教務支庁を会場に、学生の集い「まなびば」を開催し、学生15人(中学生含む)、担当者9人、計24人が参加した。

はじめに挨拶に立った鈴木眞浩教区学生担当委員長は、「同じ道を歩む者同士、普段の学校生活ではできないお道の話やまなびばの体験を通して信仰を深めてほしい」と話した。



続いて行われたグループワークでは、同じ道を歩む同世代の者として、他者との相互理解に大切なことを学ぶと共に、教祖伝逸話篇の中から、日常生活の中でどのような行いや心使いを教祖がお喜びになられるのかを学ばせて頂いた。

#### 「第40回教区学生会総会」報告



教区学生会は、去る12月8日(日)、教務支庁を会場に、第40回総会を開催し、学生25人(中学生含む)、担当者9人、計34人が参加した。

座りづとめ、よろづよ八首をつとめた後、諭達第四号を全員で拝読した。続いて式典が行われ、崎山陽平教区学生会委員長の挨拶の後、鈴木眞彦教区長よりお祝いの言葉があり、鈴木教区長は「学生の本分である勉学とお道の教えを学び、立派なようばくを目指して活動していただきたい」と話された。

この後、清水慶政本部学生担当委員会委員長の祝辞を鈴木眞浩委員長が代読し、「総会に参加した皆さんは、親神様から引き寄せられて集まるべくして集まった仲



### 災救隊

#### 「支部幹部研修会」報告

災救隊岩手教区隊は、去る11月16日(土)、教務支庁を会場に、支部幹部研修会を開催し、隊員ら14人が参加した。

ガラス窓をはじめ、換気扇やエアコン、電灯など、年末恒例となった庁舎内の清掃ひのきしんに尽力した。その後の例会では、隊長会議の報告や来年の行事予定について活発な話し合いがなされ、続いて、今年の活動の労をねぎらい慰労会が行われた。